

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第114回 カタビラ



先生：今年も日照不足、高温、長雨、乾燥と様々な異常気象で全国的に大変な一年だったと思うけど、こんな異常気象の状況ではますます養分管理、土壌管理が重要であることを思い知らされるわね・・・

生徒：長雨で養分は流され養分不足のところでは日照不足・・・しかも長雨で肥料も撒けず刈込みもできず・・・養分不足でいきなり軸刈りでは芝生は枯れるだけですね・・・緩効性肥料のありがたみがよくわかります・・・

先生：そして病気やコケも多発だわ・・・やはり春からどれだけ十分な養分を与えて光合成させて必要な養分を十分蓄えさせられるかが重要ね・・・排水不良で根が浅くなるようではお話にならないわ・・・

生徒：そして夏にグリーンがやられるとカタビラが増えてしまいます・・・

先生：そうね・・・施肥量が少ないベントグリーンはカタビラの発生が増えるわね・・・

生徒：やはり施肥とカタビラに関係があるんですか・・・

先生：あるわよ・・・カタビラはベントグラスに比べて窒素の要求量がとても少ないわ・・・一般的にライグラスの半分くらいといわれているわ・・・

生徒：なるほど・・・ベントグラスが年間約 20g/Nだとするとライグラスが 15g/N、その半分なら 7g/Nほど・・・よく聞く数字です・・・低窒素はカタビラのための施肥管理になってしまっているんですね・・・

先生：それにベントが弱いと密度が下がるのでカタビラの発芽も良くなるわ・・・しかも！・・・よくある問題の土壌中の高リン残留でリンがカタビラの種の結実を助けてしまうのでカタビラの発芽率が上がるの・・・

生徒：施肥管理の間違いでわざわざ雑草まで増やしてしまっているんですね・・・要らない有機物を増やして病気も発生させてしまうし・・・ちゃんとした管理計画を立てないと首を絞めますね・・・

先生：そのとおりよ・・・肥料養分の適正な管理をしないと芝生の成長だけではなく雑草も病気も・・・そして虫害にも影響するわ・・・しかもこの異常気象の状況下ではますます切実な問題だわね・・・

生徒：こんな気象条件下ではカタビラはすぐに消えてしまうから管理はますます難しくなってしまいますね・・・

先生：そのとおり・・・カタビ

ラのターフを維持管理するのは非常に難しいわ・・・しかも芝が枯れた裸地に最初に発芽してくるのはカタビラだから手に負えないわ・・・

生徒：日本芝ならまだ除草剤があるので何とかありますが寒地型のベントグラスでは・・・

先生：それなら私が若い時に開発した『マックワンフロアブル』といういい除草剤があるわ・・・ベントグラスのグリーンでも安心して使えて裸地化させずにカタビラを駆逐することができるので安心確実にカタビラの無いグリーンを作ることが可能だわ・・・

生徒：聞いたことがある除草剤です・・・でもほんとにベントグラスに安全でカタビラだけ枯らすことなんてできるんでしょうか？

先生：そうね・・・皆さん心配するわね・・・じゃあ私が開発した経緯からどうしてベントに安全でカタビラに効果があるのか説明しましょう・・・

生徒：お願いします・・・

先生：あれはもう 20 年近く前になるわ・・・とある日本の農業メーカーが水稲用の除草剤として『クミルロン』という化学物質を発明したのね・・・そして水稲用除草剤として商品化を進めたのだけれど今一つ殺草効果が優れないことがわかり水稲用の除草剤としての開発を見送ったの・・・そしてそのクミルロンの権利を別の会社に売ったのよ・・・その新しく販売権を買った会社が結局水稲用に発売したのだけれどやはり今一つだったので他の用途でも売れないかと考え、私に芝生用に商品開発をするように依頼してきたというのが始まり・・・

生徒：ずいぶん前の話なんですね・・・

先生：私も最初はどんな性質なのかわからなかったのだから開発した担当者の話を聞いたのよ・・・そうしたら試験場裏の空き地に「ぶっかけ試験」・・・業界用語でやみくもにただ撒いてみる試験ね・・・これをしていた所にはカタビラが出てなかったと聞いたのでとりあえずカタビラ用除草剤での可能性がないか試験を計画してあちらこちらに試験を依頼したのよ・・・そしてカタビラ王国でもある北海道のとあるゴルフ場に試験をお願いしたら・・・その翌年の春に呼び出されて現地へ赴いたわ・・・そこですごい事が起こっていたのよ・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

